全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A8　生体の機能・障がい・回復の科学		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	健やかに生きる	生命を多次元で哲学する	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	北岡　隆	責任部局	医歯薬（医学系）
趣　旨	ヒトを含む生体は生きていく上で、様々な刺激を受けとりそれに対して反応する。 古代アリストテレスはヒトが外界を感知する感覚機能を5つに分類した。すなわち視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感である。現在ではヒトの感覚はもっとあり、細かく分類すると20以上あると考えられているが、そのうちでも深部感覚は身体の位置、動きなどを感知し生きていく上で重要である。 本テーマでは五感に加え深部感覚の仕組みと、それがどのような障がいを受ける危険性があるか、また障がいを受けた場合にどのようなハンディキャップを生じるかを考えていく。障がいから回復するような治療が行われ成果をあげているが、一方で、障がいが残る場合も多い。人間の叡智はハンディキャップを様々な方法で乗り越えてきたが、その過程・方法を一緒に考えていきたい。		
学生の皆さんへのメッセージ	ヒトのからだは驚くべき精密さでいろいろなものを感知し、反応していきます。 みなさんと一緒にヒトの感覚と高度にコントロールされた動きについて学び、その障がいとどのようにそのハンディキャップを補うか考えていきましょう。この思考過程はあらゆる問題解決に共通していきます。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
耳鼻咽喉領域における感覚・機能の障がいと回復	熊井　良彦 吉田　晴郎 西　秀昭 渡邊　毅	耳鼻咽喉・頭頸部領域は、聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚に関わる感覚器や、摂食・嚥下、また人間が人間らしく生きる上で重要な音声・言語といった機能をつかさどる臓器を含んでいる。この領域の疾病や外傷によりこれらの機能は障がいされうるが、それに対する対応や機能回復の過程につき概説し、その障がいのもつ社会的問題点につき考えてもらう。	聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚、摂食、嚥下、音声、言語
運動器のしくみと機能の障がいと回復	富田　雅人 米倉　暁彦 辻本　律 宮本　俊之	我国に於ける急速な人口の高齢化によって様々な社会問題を生じている。近年健康寿命の伸延が叫ばれており、整形外科が扱う運動器の健康の重要性が再認識されている。 本授業では、運動器の仕組みや運動器に生じる障がい（疾病など）や治療法を該略し、予防法や今後の問題点について自ら考えてもらう。	運動器の構造と機能 運動器の障がい 運動器障がいの治療 運動器のリハビリ
眼の発生・多様性と障がいからの回復	北岡　隆 大石　明生 上松　聖典 築城　英子	カンブリア紀に眼を持つ生物が爆発的に増え、多様性を持ってきた。 本授業では生物の視覚器の発生からはじまり高度に発達した眼までの構造と機能をみていく。また視覚を脅かす病気やケガ、そしてそのために生じる障がいを概説する。 さらに障害で生じたハンディキャップを補う方法を自ら考えてもらう。	眼の発生 眼の構造と機能 眼の障がい ロービジョンケア

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
耳鼻咽喉領域における感覚・機能の障がいと回復	○	◎	○		○	○	◎		○	○	○	○	○	○
運動器のしくみと機能の障がいと回復		◎	○				○		◎				◎	○
眼の発生・多様性と障がいからの回復		◎	○				◎		◎	○	○	○	○	○
◎（特に重視）の数	0	3	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0
○（重視）の数	1	0	3	0	1	1	1	0	1	2	2	2	2	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A9　教育の基礎		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	教育と社会	教育と文化	
対象学部	多文化社会学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	前原　由喜夫	責任部局	教育学部
趣　旨	教員免許状の取得を見据えて、教師を目指す者が身に付けておかなければならない基礎的な知識、つまり教育、学校、子どもに関する基礎的な知識を修得します。当テーマ「教育の基礎」（モジュールⅠ）では、教育や子どもという理念や歴史、子どもの心理発達と教授・学習に役立つ心理学的知見、教育行政と制度などについて学びます。なお、推奨するモジュールⅡのテーマ、「教育と社会」と「教育と文化」では、教育相談・文学・自然科学・芸術・環境などの内容から自身の興味に応じて選択し、各内容について教育現場（学校や地域社会）との関わりから学んでゆきます。		
学生の皆さんへのメッセージ	取得可能な教員免許状は、学部等によって異なります。取得可能な免許状について調べた上で、免許状の取得を希望する学生は受講してください。なお、教育に強い興味・関心のある方も歓迎します。ちなみに、本モジュールだけでは、教師に必要な素養のすべてを得ることはできません。当テーマで得たものを糧に、幅広い教養を身につけていってください。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
教育原理（教育課程の意義及び編成の方法の内容を含む。）	未定	前近代から現代までの、思想史的・史的・社会学的な基本事項を学ぶ。それを踏まえ、教育の理念や、教育の現実について、クリティカルに考察する。	子ども、学校、家庭、若者、先生、近代教育
教育心理学	前原　由喜夫	教育現場に必要な心理学的知識、特に心理発達、学習・記憶・認知過程、動機づけ、パーソナリティ、発達障害と臨床心理の重要事項を学び、それらを効果的な教育実践に役立てる方法を考える。	発達、学習、動機づけ、パーソナリティ
教育社会・制度論	中川　幸久 中島　ゆり 池田　浩	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較、危機管理

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点 A 人文科学の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り扱う	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用
教育原理（教育課程の意義及び編成の方法の内容を含む。）	◎			○	◎	○	○		○	○	◎	○	○	
教育心理学	○	◎	○	○	○	○		◎	○			◎	○	○
教育社会・制度論	◎				○		◎			○		○	◎	○
◎（特に重視）の数	2	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0
○（重視）の数	1	0	1	2	2	2	1	0	2	2	0	2	2	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A10　環境をめぐる諸問題		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	環境と社会生活	環境と社会の共生	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井口　恵一朗	責任部局	環境科学部
趣　旨	現在、私たちを取り巻く環境問題は複雑さを増し、もはや二項対立の単純な構図の中に解決の糸口を見出すことは困難な状況にある。「生物多様性」、「都市環境」ならびに「地球温暖化」をテーマに掲げ、持続可能な社会の実現に資する専門知識の習得を目指す。		
学生の皆さんへのメッセージ	文理融合の学際的なアプローチから、環境問題の本質を理解するために有用な技術を学び取ってください。問題解決に当たって、自らの言葉で表現する態度を養って欲しいと願っています。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
生物多様性を考える	井口　恵一朗 太田　貴大 山口　典之	地球上に生息・生育する種々の生物がお互いに競争・共存し、現在の複雑で多様な生態系が危ういバランスの上に成り立っていることを複数の事例を元に理解する。その上で、農業や水産の現状と目指すべき方向を学び、環境問題と食糧確保との関連を様々な視点から議論できる知識と素養を養う。	生物多様性、生態系、生物間相互作用、食糧問題
都市環境を考える	渡辺　貴史 片山　健介	近代日本のインキュベーターだった長崎の都市環境を皆さんと一緒に考えたい。長崎の都市環境といえば、直ちに斜面市街地における特徴的な景観や、海の見える光景が目に浮かぶ。そこでこれに交通面等から接近する。ただ本講座では、広域都市圏を対象とし、都市の持続可能性を求めて、里山や過疎化が進行している郊外地域の生活環境にも目を向ける。のみならず、明治から昭和戦前の華やかなりし長崎の歴史的景観にも思いを馳せ、長崎に紛うことなく、「近代」は来ていたことを確かめる。	都市環境、斜面市街地、里山、交通、景観、まちづくり
地球温暖化を考える	冨塚　明 河本　和明 高尾　雄二 和達　容子	温室効果のしくみを学び、それに伴う気象および気候の変化を学ぶ。また関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国際間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。	温室効果、地球温暖化、エネルギー収支、化石燃料、各国の立場

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
生物多様性を考える		◎	○			○	◎			○	○	○	◎	
都市環境を考える	○						○			◎		◎	○	
地球温暖化を考える	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎		◎	◎	◎
◎（特に重視）の数	0	1	1	1	0	0	1	0	1	2	0	2	2	1
○（重視）の数	2	1	1	0	1	2	2	1	0	1	1	1	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A11　暮らしに活かす情報技術		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	情報社会を考える	ICTの仕組みと活用法	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	上繁　義史	責任部局	ICT基盤センター
趣　旨	世界中の多様な情報機器がインターネットに接続されるようになり、そこで流通する膨大な情報を分析し活用することで、新たな付加価値を創造できる時代になりました。その中にあって、私たちは情報や情報技術と正しく向き合い活用していかなければなりません。本モジュールでは、情報の視点から、こうした社会に適応する基礎力の獲得を目的に、3 つのサブテーマについて学びます。①多種多様な情報を解釈・活用するための処理技術や手法、②インターネットと情報サービスの新たな展開とその基礎技術、③情報や情報機器を安全に利活用するために必要な知識を習得します。		
学生の皆さんへのメッセージ	今日の社会では、大学での学習・研究だけでなく、どんな場面でも「情報活用」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、本モジュールにてさまざまな知識や技能を身につけてください。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
情報の活用	丹羽　量久	整った報告書（レポート）の効率的な作成に欠かせないデジタル文書作成技法およびデータ分析に応用できる中級レベルの表計算技法とその可視化技法について演習を交えながら学ぶ。	文書作成技法 表計算技法
情報社会の安全と安心	上繁　義史	情報化社会における、セキュリティ維持について、基本となる知識や考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術、ルール、運用の基礎について講義を行う。また、理解を深めるために、講義内容に関連した発展的な議題についてグループディスカッションを行う。	情報セキュリティ 情報セキュリティリスク リスク管理 個人情報保護
計算機の科学	一藤　裕	基本的なプログラムの作成方法、個人情報を含んだビッグデータの利活用について講義を行う。プログラミングの演習を通じて、アプリケーションプログラムや Web サービスへの理解を深め、得た知識を応用するグループ学習を行う。	ビッグデータ プログラミング Web サービス

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
情報の活用	◎	○	◎	◎	○				○			○	○	◎
情報社会の安全と安心	◎	○	◎	◎	◎	◎			○		○	◎	◎	◎
計算機の科学	◎	◎		◎	○		○	◎	◎				◎	◎
◎（特に重視）の数	3	1	2	3	1	1	0	1	1	0	0	1	2	3
○（重視）の数	0	2	0	0	2	0	1	0	2	0	1	1	1	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A12　国際社会を理解するための多様な視点		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	多文化共生とグローバル人材育成	グローバル化と国際開発	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	松村　真樹	責任部局	グローバル連携機構
趣　旨	このモジュールは、将来、グローバル社会で活躍を目指す学生が有すべき基本的な素養を教授することを目的とします。そのために国際関係を理解するための基礎知識を体得してゆきます。今後、皆さんが、グローバル社会の舞台で活躍するにあたり、国際ビジネス分野、政府や国際機関等の公的分野、NPO や NGO による民間分野において、どのようなリテラシーが要求されるのか、そのために今後、どのような取り組みが必要とされるのか、あるいはグローバル社会での活動の意義といったより基礎的な知識を皆さんと共有します。未知の大海に打って出ようとする気概のある皆さんの受講をお待ちしています。		
学生の皆さんへのメッセージ	「国境を越えた」という言葉でなく、国境という概念自体を意識することなく、社会で活躍する人材を育成する、との目的でこのモジュールは目指しています。そこでは単に英語や外国語能力が求められるのではなく、しっかりとした目標を持ち、そのための基礎的な知識や素養をしっかりと身につけておかなければなりません。その上で、高いコミュニケーション能力、すなわち自らの考えをしっかりと相手に伝える力を持つことが必要です。このような意識を有する皆さんの受講をお待ちしています。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
グローバル化時代の社会問題	松村　真樹	グローバル社会が直面する諸問題を理解するために必要な社会学的教養を磨くことを目的とする。経済のグローバル化、社会的不平等の拡大、消費文化の拡散、国際人口移動と難民、民族や宗教の違いから生じる摩擦、移民とその家族、途上国の貧困、グローバルな環境問題などについて、具体的事例を使って概観し、それらに関わる概念や解釈の仕方を習得する。	国際社会学 国際人口移動 社会開発 人間の安全保障
国際的視点に立った法と政治	嶋野　武志	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければ、紛争が多発してしまいます。しかも、20世紀に比べ、あらゆる面で国際的な交流が増加している21世紀においては、自国の法だけでなく、異なる歴史・文化を持つ他の国・地域の人たちの法についても、基礎的な知識が欠かせません。この科目では、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、国際的なルールである国際法などを概観するとともに、そうした法を生み出す背景としての政治についても考えます。	法 法の背景としての歴史・文化 法を生み出す政治
グローバル人材へのリテラシー～グローバル人材 2.0～	松島　大輔	現代社会におけるグローバル化の意味と将来の就職を考える時、コミュニュケーションに必要な情報源の質・量と、そして伝達手段としての言葉や技術の修得が必要最低限となる（語学力・コミュニュケーション力）。情報氾濫の時代、限られた時間と空間の中で、自然科学、社会科学、人文科学の諸学を実践的な教養として俯瞰し、長崎を足場にしたグローバル化の実践例を多面的に学ぶ。これが今必要とされる真のグローバル人材（バージョン 2.0）であり、そのリテラシーを磨こうではないか。	グローバル人材 2.0、教養、実践知、プレゼンテーション、トランスナショナル、グローバルイノベーション

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点 A 人文科学の内容を取り扱う	B 社会科学の内容を取り扱う	C 現代的な話題を取り入れる	D アクティブ・ラーニングの活用
グローバル化時代の社会問題	○	○	◎	○	◎	○	◎			◎		◎	◎	○
国際的視点に立った法と政治	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	○
グローバル人材へのリテラシー～グローバル人材 2.0～	◎	◎	◎	○	◎		◎	○	○	◎	◎	○	◎	◎
◎（特に重視）の数	2	2	3	0	2	1	3	0	0	3	1	2	3	1
○（重視）の数	1	1	0	3	1	1	0	2	2	0	1	1	0	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	変容する環境とリテラシー	モジュール科目区分	全学モジュールⅠ科目
テーマ名	20-A13　コミュニケーション基礎講座		
推奨する全学モジュールⅡ科目テーマ名	グループ・コミュニケーション	文化と対人関係	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	當山　明華	責任部局	大学教育イノベーションセンター
趣　旨	今日、コミュニケーション力は社会人の基礎力の中核とされており、大学卒業時に期待される多くの能力のなかでもその筆頭に挙げられています。他方で、我々は皆ヒトという生き物として、また特定の文化圏に生まれた者として、既に存在するコミュニケーションの網目の中で育ってきます。つまり我々は、個人としてコミュニケーションを行う以前に、コミュニケーションのなかで今の自分になってきたともいえるのです。 したがって、コミュニケーションの実践力を高めるためには、普段当たり前にとらえているコミュニケーション状況を明らかにし、その上で各自のコミュニケーション力をより機能的なものにしていくことが有効です。本科目群では、コミュニケーション状況を理解するとともに基礎的なコミュニケーション力を高めつつ、コミュニケーションの深い理解に基づいた実践力向上を目ざします。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問いませんが、コミュニケーションについて広い関心のある方、また他者と協働して学習を進めていくことに関心のある方を歓迎します。科目内容だけでなく、他の学生たちと、また担当の教員たちとコミュニケーションを実践していくこと自体が、コミュニケーション技能の向上の機会となります。課題が多いですが、ぜひチャレンジして下さい。		

科　目　名	担当者名	概　　要	キーワード
対人関係の社会学	岡田　佳子	成長と共に広がる人間関係の中で身についていく思考やふるまい、関係性について理解を深める。また、協同学習を通して人の多様性について考える力を身につける。	社会化・家族・ジェンダー・学校文化・階層
メディア・コミュニケーション基礎	深尾　典男	日常の様々なメディアの影響力を検討し、社会規範の形成や権力の浸透におけるコミュニケーション過程を理解して生活に活かす。	権力・記号・言説分析・ﾎﾟｽﾄﾓﾀﾞﾆｽﾞﾑ
コミュニケーション基礎実践	當山　明華 岡田　佳子 若菜　啓孝	日本語の「読み」「書き」およびプレゼンテーションやディスカッション等の基礎的な技能を高める。加えて、ソーシャルメディアの可能性や情報化の光と影などについても理解する。	日本語・論理的思考力・自己表現・情報リテラシー

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点			
											A	B	C	D
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	国際・地域社会への関心	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
対人関係の社会学	◎	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎
メディア・コミュニケーション基礎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
コミュニケーション基礎実践	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎
◎（特に重視）の数	2	3	1	2	2	0	3	3	3	1	1	2	1	3
○（重視）の数	1	0	2	1	1	3	0	0	0	2	2	1	2	0

工学部・水産学部に係る JABEE 項目